

SARU MONOGATARI
サル物語



B群に「ミルミル」というメスザルがいます。
ミルミルはB群第2位の「ナンチュウ」と仲が良く、ナンチュウと一緒にいるところを良く見かけます。ナンチュウは今年の6月までB群の第1位を約7年間も続けてきました。そのナンチュウが1位であった頃のミルミルは仲の良かったナンチュウの近くにいることが多く、餌付けをするとナンチュウが餌の多く撒かれる場所である切り株の上に座り、ミルミルがナンチュウの座っている切り株の近くに位置取ることで、外のメスザル達よりも多くの餌を食べることができていました。

その生活が一変したのが6月の23日のことでした。当時第1位だったナンチュウが現在第1位の「ヤケイ」とケンカになったのが、このミルミルの子どもがきっかけでした。ヤケイの目の前にあった餌をミルミルの子どもが奪ってしまったのです。ヤケイにしてみれば腹立たしいことこの上なかったに違いありません。すぐにミルミルの子をつまみ上げて咬みつきました。それを近くで見ていたミルミルの友達であるナンチュウが助けに入ったのです。しかし、ナンチュウはヤケイの反撃にあい、あえなくナンチュウ共々ミルミル一家も切り株付近から逃げることになりました。

その日から、ミルミル一家が切り株付近で餌を食べることはなくなりました。ナンチュウを後ろ盾にしながらサル寄せ場で餌を多く食べることが出来ていたミルミルですが、実はミルミルの母親「ミテル」は以前B群のメスザル第1位でした。その当時の第1位のオスザルと仲良くしながらB群の中で、餌を他のサルよりも多く取ることができていたのです。その子であるミルミルは、もしかしたら母親の後ろ姿を見ながら処世術を学び、他のサルよりも餌を多く採ることができていたのかもしれませんが。

しかし、時代が変わってしまったのかもしれません。第1位のオスザルの力を凌駕するメスザル(ヤケイ)が現れ、これまでの高崎山のサル社会の常識を覆してしまったのです。ミルミルもこの時代の流れに身を任せるしかなかったのでしょう。現在では以前のように比較的餌の多い場所ではなく、他のサルたちと同じような場所で餌を拾っています。

オスザルたちよりも上位に立つ力強いメスザル「ヤケイ」の出現によって、ミルミルに見られるように、オスザルを後ろ盾にしながらメスザル社会での優位性を保ってきたメスザルたちにとっての処世術は、もろくも崩れ去って行くのでした。



ご意見・ご要望をおまちし
ています。



国立公園 高崎山自然動物園
〒870-0802 大分市神崎3098-1
TEL 097-532-5010 FAX 097-536-2500
E-mail / info@takasakiyama.jp
http://www.takasakiyama.jp/

MT Takasakiyama C Member's Club

[高崎山メンバーズクラブ] 会報



国立公園
高崎山
自然動物園
2021.冬号
No.105



写真募集中!! 皆さんの撮影したステキなお写真で会報誌の表紙を飾ってみませんか。
なお、お写真・データはお返しできませんので、ご了承ください。



スタッフブログ、フェイスブック、Instagram、Youtubeで
高崎山自然動物園のサルの出来事を紹介しています。

★大分市内の小学生・中学生は入園料無料です。学生証などを見せて入園してください。

写真提供：高崎山メンバーズクラブ会員/高市 健三様

高崎山の

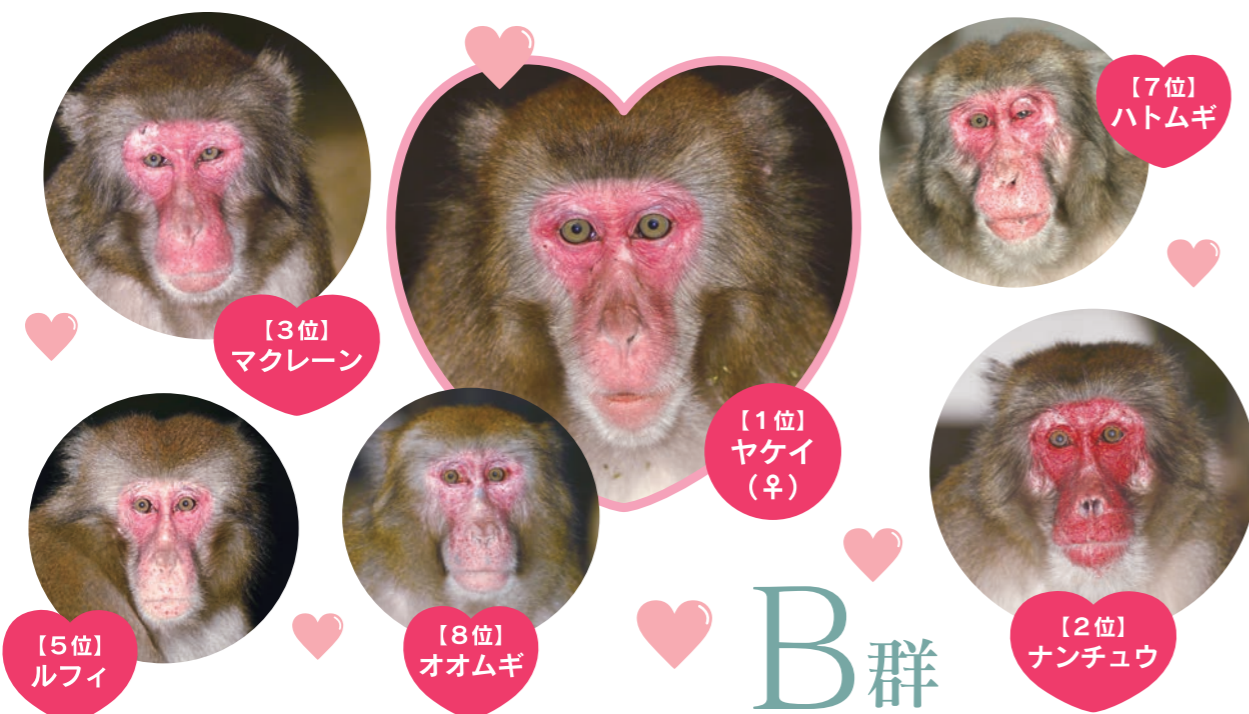
絡み合う恋模様

想い想われ、振り振られ…B群C群の恋の行方

人は季節を問わず、恋愛をすることができますが、高崎山に生息するニホンザルは11月から3月と恋愛の時期が限られています。それは、ニホンザルの妊娠期間は5か月半ほどなので、出産時季が5月から8月になり、誕生した赤ちゃんザルが成長することにより無事に冬を乗り越えられるようになるからだと思います。

春から秋の間、ピンク色だったサル達の顔が、オスザルもメスザルも発情したサルだけは一変し真っ赤になります。まるで中国伝統芸能の「変面」のようです。昨日までピンク色だったサルが翌日には真っ赤な顔をして山から下りてくるため、一瞬誰か判らない事もあります。そのような中、毎年気になるのは誰と誰がお付き合いをするのかです。この冬、興味がある2頭のサルを紹介したいと思います。

1頭目はB群第1位「ヤケイ」です。この冬、彼女にどのオスザルが近づくのか非常に楽しみです。一緒に行動するところを見かける第8位「オオムギ」なのでしょうか？それとも若手の第5位「ルフィ」、第6位「ゴロー」、第7位「ハトムギ」あたりでしょうか？はたまた、第2位「ナンチュウ」、第3位「マクレーン」、第4位「ハジメ」のような老齢ザルなのでしょうか・・・



そしてもう一つ考えられるのは、「オス」から近づくのではなく、ヤケイから近づいていくパターンです。ヤケイの地位が今の地位になってからというもの、ヤケイが近づくとオオムギ以外のオスザル達は嫌そうな顔をしながら遠ざかっていたり、遠くからでもヤケイの姿が確認できると大きく遠回りをするような、ヤケイを避ける行動が見られます。見てみると、ヤケイがとても可愛そうになります。ヤケイが好みのオスザルがお付き合いをしてくれれば良いのですが・・・また今年お付き合いをしたオスザルのその後の地位、さらにはヤケイの地位も気になるところです。

そしてもう1頭、興味があるのはC群「シャーロット」です。昨年の冬、「ヨッシー」に恋をしたシャーロットは、切なそうな表情で遠くからヨッシーを見つめていたり、たとえ近くに行っても相手にされず・・・残念ながらうまくはいかなかったようです。そんなシャーロットの今年の相手もヨッシーなののでしょうか、はたまた他のオスザルなののでしょうか。そして今年誰かがシャーロットに求愛するのでしょうか。



B群C群共に、恋の行方が気になります。両群から目が離せません!!

トケイの毛づくろい

B群に手の不自由な「サヤカ」と名付けたメスザルが生活しています。

そのサヤカの毛づくろいを頻繁にしている心優しいメスザルがいます。それが「トケイ」と名付けたメスザルです。このトケイは、今話題になっている高崎山初のメスザルで群れの第1位になった「ヤケイ」の妹になるのです。この毛づくろいを発見したのは6月の梅雨の頃でした。一瞬目を疑いました。トケイは優位家系であり、対してサヤカは劣位家系で非常に弱く、他のサルから攻撃を受けることもしばしばあります。そのサヤカに対して優位家系のトケイが毛づくろいをしていることに驚きました。トケイの一族は弱いサルに咬みつくなど、スタッフから見るとこれまでは性格の悪いイメージしかなかったのです。

「まさかトケイが。」と思ったのですが、7月にもサヤカに対して毛づくろいをしている様子を見ました。スタッフのトケイに対するイメージがガラッと変わった瞬間でした。その後2週間に1回くらいは毛づくろいをしている様子を目撃しています。

「サヤカのお世話頼んだよ！」とトケイに声をかけたくるような光景です。

